

平成26年度 調査研究事業

医療、保健衛生等の分野における各種の在宅ケアについて、次のとおり調査研究を行った。

(1) 在宅介護実態調査

神戸市医師会に委託して、神戸市医師会員が主治医として診察している在宅長期寝たきり者について、次のとおり実態調査を行った。

ア. 回答集計

在宅長期寝たきり者（平成26年 7月1日現在、6か月以上寝たきり者）

総 数 1,849人（男性 590人、女性1,253人、不明 6人）

（平均年齢 81.9歳（男性77.6歳、女性83.9歳））

イ. 医療の対象である主たる病名

① 脳梗塞及び脳出血後遺症・脳血管障害	446人（24.1%）
② 高血圧症・心疾患	225人（12.2%）
③ 廃用性症候群	202人（10.9%）

ウ. 「寝たきり」の原因となった主たる病名

① 脳梗塞及び脳出血後遺症・脳血管障害	521人（28.3%）
② 廃用性症候群	297人（16.2%）
③ 変形性関節症による運動障害	219人（11.9%）

エ. 在宅で行っている医療行為（複数回答可）

① 胃瘻（空腸瘻含む）による経管栄養	235人（10.9%）
② リハビリなどの機能訓練	200人（9.3%）
③ 尿道留置カテーテル	168人（7.8%）
④ 褥瘡などの創傷処置	165人（7.7%）

オ. 医学的見地から、より充実させるべき医療行為（複数回答可）

① 訪問リハビリテーション	562人（24.8%）
② 入院のための病診連携	476人（21.0%）
③ 訪問看護	365人（16.1%）
④ 他科医師との連携	320人（14.1%）

カ. 現状で不足していると思われるサービスの種類（複数回答可）

① なし	798人（37.1%）
② 短期入所療養介護（ショートステイ）	321人（14.9%）
③ 訪問リハビリテーション	244人（11.3%）
④ 訪問介護（ホームヘルパー）	198人（9.2%）
⑤ 訪問看護	176人（8.2%）

キ. 主として介護している人

① 子供 (女)	449人 (26.0%)
② 配偶者 (女)	357人 (20.6%)
③ 配偶者 (男)	217人 (12.5%)
④ 子供 (男)	214人 (12.4%)

(2) 神戸リハビリテーション病院退院患者調査

病院退院先の推移

(単位：人)

年度	退院患者数	家庭	病院	老人保健施設	老人福祉施設	その他
21	663	432	109	107	4	11
22	703	462	116	103	2	20
23	687	453	112	107	4	11
24	657	444	112	87	0	14
25	658	441	117	74	3	23
26	661	460	104	74	2	21

(3) 神戸リハビリテーション病院入院患者の口腔調査研究

神戸市歯科医師会に委託し、平成26年11月から平成27年4月の間に、歯冠修復、欠損補綴を完了した入院患者25名(表1)に対して舌圧測定を実施した。その患者の中から脳血管疾患患者15名(表2)を抽出し、健常者36名(表3)との舌圧測定値の比較を行った。

ア. 機能評価方法

各患者2回ずつ、JMS社製舌圧測定器を用いて、プローブ先端にあるバルーンを舌と口蓋の間に入れて、バルーンを舌で押さえることで、舌圧を測定した。

表1 (被験者25名)

平均年齢	78.04歳
疾患名	CI: 9名 SAH: 6名 CMS: 4名 その他: 6名
咬合(アイヒナーの分類)・義歯	上顎 FD: 8名 PD: 7名 下顎 FD: 6名 PD: 11名
舌圧平均値	17.22kPa

*被験者：(男9名 / 女16名・53歳～93歳)

*CI：脳梗塞 SAH：くも膜下出血 CMS：脊椎症性脊髄症

*FD：総義歯 PD：部分床義歯

表 2 (被験者 15 名)

脳血管疾患患者平均年齢(歳)	74.6 歳
舌圧平均値	16.4 kPa

*被験者 (男 6 名 / 女 9 名・53 歳～93 歳)

表 3 (被験者 36 名)

健常者平均年齢(歳)	30.3 歳
舌圧平均値	38.22 kPa

*健常者：リハビリテーション職員 36 名(男 18 名 / 女 18 名・21 歳～60 歳)

イ. 考察

脳血管疾患群と健常者群との舌圧について、スチューデント T 検定を用いて有意差検定を行った結果、有意差があると判断された($p = 5.51401E \sim 10$)。

しかし、脳血管疾患群の平均年齢が 74.6 歳に対して、健常者群の平均年齢が 30.3 歳と平均年齢で 44.3 歳の開きがあった。文献では、70 歳以上の舌圧は、20 代から 60 代の舌圧に比して有意に低いと報告されている。今後は、同世代の対象群との比較において、有意差を因る必要があると思われる。

また義歯による咬合回復を行った前後に舌圧測定ができた症例は 1 症例のみであったが、義歯装着後は装着以前に比して、舌圧は高くなっていた。今後は、脳血管疾患群のなかで、疾患の重篤度による機能の差や、咬合、食事形態等も解析に入れる必要があると考えられ、今後さらに多くの症例を集めて調査していきたい。